

佐賀大学リメディアル e ラーニング教材の導入について

久留米工業大学 佐塚秀人

佐賀大学からの教材提供

3月31日に佐賀大学 e ラーニングスタジオを訪問し、穂屋下教授から大学コンソーシアム佐賀および佐賀大学の e ラーニング環境についてレクチャーを受けた。佐賀大学の e ラーニング教材の開発拠点である e ラーニングスタジオで開発・製作したリメディアル教材は外部に対して提供することが可能との話を伺い、大学コンソーシアム佐賀との提携、教材のライセンスについての検討を開始した。

大学コンソーシアム佐賀としては、開発した教材が外部で利用されるということは大きな実績となるため、比較的安い費用でリメディアル教材の提供を提案してくれている。

稼働環境

佐賀大学 e ラーニングスタジオでは、オープンソースソフトウェアである Moodle(<http://www.moodle.org/>)を LMS として用いている。オープンソースであることから、利用の制限が少ないこと、バージョンアップ等のメンテナンスの手続きが用意であること、運用のコストが安いこと、などから Moodle を採用している。

Moodle は多くの大学で実際に利用されている実績があり、日本 e-Learning (<http://www.jela-npo.org>) 学会等からも多くの情報を得ることができる。

Moodle は標準規格である SCORM 形式の教材を運用することができる。Internet Navigware も SCORM 形式を取り込むことができるはずだが、佐賀大学のコンテンツが利用されているかはわからない。

提供科目

以下のリメディアル科目が教材として制作され提供されている(詳細は e ラーニングスタジオパンフレット参照、図1)。

レベル	科目
初級編(中学レベル)	英語, 数学, 生物, 化学
中級編(高校レベル)	英語, 数学(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, A, B, C), 生物, 化学, 物理(Ⅰ, Ⅱ)
上級編(大学基礎レベル)	微分積分(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)

ライセンスの形態

穂屋下教授との話では、大学コンソーシアム佐賀との間で提携の協定結び、この教材の利用ライセンスを得ることができるとのこと。しかし、現在実績はなく(問い合わせは北海道の大学から1件ある)、今後検討をしてもらう必要がある。穂屋下教授からは無償は無理だが、すべての科目を比較的安価な費用の範囲で、コンソーシアム久留米の組織を対象に提供できそうだという話をいただいている。

詳細については、現在大学コンソーシアム佐賀のサブ・コーディネーターである枝川様に問い合わせ中(大学コンソーシアム佐賀内での検討が必要と思われる)。

導入の価値

昨年度 e ラーニング教材開発の呼びかけを行い、実際に制作を試みているが、e ラーニングを実践したことがない人には制作はおろか運用すらできない。e キャンパス部会の役割として、e ラーニング教材の制作の支援・指導という項目があるが、経験をもたない者が指導はできないと考えるのが自然である。

地域の e ラーニング教材を蓄積していくことは重要であるが、その前段階としてまず e ラーニング教育実践の試みの場が必要である。佐賀大学が提供してくれる教材は専門科目の教材ではなく、基礎的なリメディアル教育教材であるため、さまざまな講義の中の補助教材(基礎学習が不足している学生への提供)として利用することができる。将来的には単位認定が行えるような科目が提供されることを期待するが、現時点では e ラーニング教材の利用機会を作ることが重要だと思われる。

e ラーニングの実践は教材を制作することだけにあるわけではない。むしろ既にある教材を活用して、教育を実践することが大切なことである。幸い佐賀大学では質の高い教材を開発する能力をっており、低廉な費用でこれらを導入する機会を提供してくれている。e キャンパスの最終目標にはまだ遠いが、今年度の e キャンパス部会の活動として、大学コンソーシアム佐賀との提携による e ラーニングのノウハウの習得を第1目標に設定してはどうかと提案したい。



図1 リメディアル教材一覧(パンフレット写真)